

「版画」ってどうみればいい?

参加
無料

2018年6月29日(金) 19:00 - 20:00

国立西洋美術館 講堂 (企画展示館地下2階)

定員 130名 | 当日 18:00 より本館 1階東口付近にて整理券を配付いたします。
場所が不明な場合は、インフォメーションでお尋ねください。

※ご参加には整理券が必要です。
※「ミケランジェロと理想の身体」をご覧いただく場合には、チケットの購入が必要です。
※金曜・土曜日の夜間開館時(17時以降)の常設展の観覧料は無料です。

小企画展「西洋版画を視る—エングレーヴィング:ビュランから生まれる精緻な世界」(版画素描室(新館2階)にて2018年6月19日より開催)に関連して、版画に関するトークイベントを開催します。

版画作家として活躍し、技法書の執筆も手掛けてきた渡辺達正さん(多摩美術大学名誉教授)をお招きし、版画の見方、楽しみ方についてお話しいたします。長年追及されてきた様々な版画技法や、それを生み出す道具、それらから生まれる多様な表現についてもご紹介いたします。

一見、地味に思われる版画の世界ですが、このトークを聞いたあとには、作品に表されるひとつひとつの“線”が立ち上がってみえてくる!?ハマると奥の深い、版画の世界に飛び込んでみましょう。

渡辺達正 (わたなべ・たつまさ)
多摩美術大学名誉教授



- 1947年 愛知県に生まれる
- 1970年 多摩美術大学絵画科油画専攻卒業
多摩美術大学油画専攻 副手
- 1971年 春陽会 研究賞
- 1974年 春陽会版画部準会員推挙
- 1977年 春陽会版画部会員推挙
- 1978年 多摩美術大学油画専攻 講師
一般社団法人春陽会 版画部 会員推挙
- 1979年 技法書「銅版画」刊(創元社)
- 1983年 現代日本の美術—風景の表現展(宮城県立近代美術館)
- 1992年 春陽会 岡賞
- 1997年 多摩美術大学版画専攻 教授
- 1998年 自動目立て装置を実用新案 工業所有権取得
- 2003年 TATSUMASA WATANABE Copper plate works (タイ:シラパコーン大学)
- 2004年 個展(タイ:チェンマイ大学)
- 2011年 『銅版画を作ろう』(阿部出版)刊行
- 2018年 多摩美術大学 名誉教授

エングレーヴィングってなに?

細かい線はどうやって彫ってるの?

版画をみるポイントは?

※やむを得ない事情により、内容を変更または中止する場合がございますので予めご了承ください。

[版画素描展示室(新館2階)] 2018年6月19日(火)—9月24日(月・休)

西洋版画を視る—エングレーヴィング:ビュランから生まれる精緻な世界



アルブレヒト・デューラー
《ネメシス(運命)》1502年
国立西洋美術館

当館では、研究者を対象に所蔵版画作品を額装していない状態で直に見る閲覧の機会を提供してきました。本展はその閲覧と展示を組み合わせる版画作品を紹介する新たな試みです。エングレーヴィングという技法による15-17世紀の作品を中心に取り上げ、2つのセクションで構成します。

セクション1では、「運命」という主題を軸に、15-17世紀エングレーヴィングの様々な表現を紹介します。「運命」の擬人像をはじめ、決して死を逃れられない人の宿命を表した作品や、愚かな振る舞いが招く結末を運命論的に描いた作品などを取り上げます。一連の例からは、当時の人々による「運命」のとらえ方も見えてくるでしょう。

セクション2では、これらの作品でなされたエングレーヴィングという技法そのものに焦点を当て、技法特有の線の集積である「物質」としての版画に迫ります。エングレーヴィングは、版画の歴史において古くから用いられている技法で、ビュランという道具で銅板上に一本一本線を彫って版を作ります。工程自体はシンプルですが高度な技術と膨大な時間を要します。ここで紹介するのは現代の道具や工程ですが、私たちが作り手の側に立ち、改めてその表現に着目する時、浮かび上がってくる作品の力を感じていただければ幸いです。

セクション2の展示スペースでは、本展に関連する版画作品について、上述の閲覧を実施します。閲覧対象者を拡大して学校教員を含め、創作体験と合わせたプログラムを行います(事前申込制)。日時などの詳細は追ってホームページにてお知らせいたします。